

「 亀 の 瀬 」

奈良県 葛城市立新庄小学校 3年 柴田^{しばた} 悠矢^{ゆうや}

ぼくは、夏休みに亀の瀬地すべり地に見学に行きました。

ここは、昭和37年から国が最先端の技術で、地すべりの対策工事を行ってきた場所です。

地すべりとは、しゃ度が30度以下の場所で地面がゆっくりうごくげんしょうです。土塊とすべり面のあいだに地下水がたまり土塊がうごきます。

亀の瀬は、ならと大阪をつなぐ大和川のきしにあり、地すべりがおこると大和川がせきとめられ上流のならけんがわで川がはんらんし町をのみこんでしまいます。また、せきとめられたところがけっかいすると、下流の大阪がわで同じことがおこります。

では、どうしたら地すべりを止めることができるのでしょうか。国では三つの対策をとっています。

一つ目は「抑止工」です。96メートルもある長いくいで土塊をつらぬきもつとかたいところまでおしこんで土塊をうごかなくする方法です。

二つ目は、「抑制工」です。土塊を少しとりのぞき、すべる力を少なくする方法です。

三つ目は、地中の水をへらし、土塊がすべりにくくする方法です。これは地中にパイプをうめて地下水をぬき、集水せいといういどに水をあつめ、はい水トンネルから水を外にながす方法です。ぼくはこの集水せいと、はい水トンネルを見学しました。はいすいトンネルは地中ふかくにあるので、年かんをとおして15度くらいととてもすずしかったです。また集水せいには思ったより水がたくさんながれていて、おどろきました。

もとの鉄道がとおっていた場所に家がならんでいてびっくりしました。

土砂災害はぼくにとって遠いところのできごとだと思っていました。亀の瀬にいったみて、こんなみじかに大きな土砂災害がおこった場所があるなんて思ってもいませんでした。

これからは土砂災害のことについて、もっと学んでいきたいと思うとどうじに、みんながはらったぜい金が、こんなふうにかされ人びとがあん心してくらせるようになっているんだなと感心しました。